

はじめに

地球が生まれて46億年という月日が流れました。生まれたばかりの地球は、隕石がぶつかった痕でボコボコしていて、今のように酸素もなく、生き物の姿もありませんでした。それから今日まで、さまざまな生き物が地球上に現れては消え、幾度となく大絶滅と大発生を繰り返してきました。はるか昔から地球にいる多くの生き物たちに支えられ、今の私たちがあります。また、食べ物も、着る服も、家の材料もほとんどが、生き物たちによるものです。つまり、私たちは生き物たちに、生かされているのです。ところが、私たち人類は、気づかぬうちに多くの生き物を絶滅に追いやりました。今もなお、多くの生き物たちが絶滅の危機に瀕しています。このままでは、近いうちに人類は、多くの生き物を巻き添えに、地球上から消えてしまいかもしれません。

そこで、その危機を回避するために、1992年ブラジルのリオデジャネイロで、地球サミットが開催されました。ここでは、これから地球を良くしていくための、基本原則となるリオ宣言と、地球を救ったための二つの条約が採択されました。一つが温暖化を

防止する気候変動枠組条約。そして、もう一つが生物多様性条約です。

二つの条約は地球を救う方策の両輪と言われていましたが、その取り組みには大きな差が開いてしまいました。片方だけががんばっても、うまくいくはずがありません。その結果、2010年までに種の絶滅スピードを緩やかにすることも、また、2010年までに温暖化対策として二酸化炭素の排出量を削減することも、共に達成できませんでした。

目標年度となった今年、日本の名古屋で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催されます。これをきっかけに1人でも多くの方が、生き物たちに生かされていることに気づき、地球全体を良い方向へ動かしていく一歩を踏み出してほしいと思います。

本書では、生物多様性とはなにかを解説するとともに、地球の方向性を変えたり宣言をやさしくひも解いてみたいと思います。

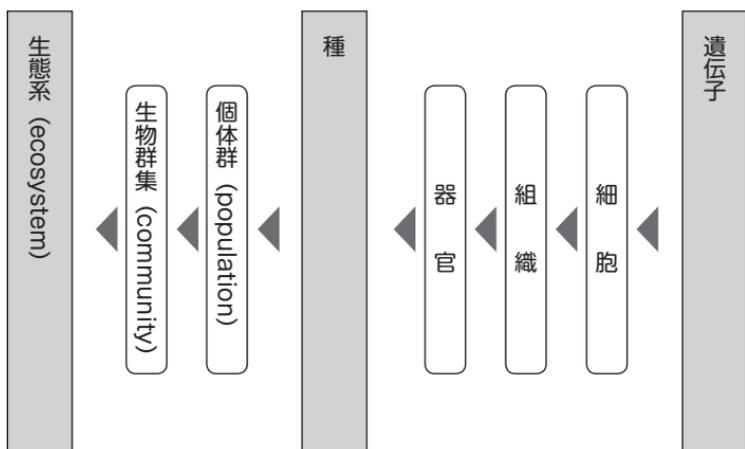
生物多様性って
なあに？



生物多様性とは？

生物多様性とは、生態系、種、遺伝子が豊かなことで、生き物自身とそれを巻き取るすべてに違いがあり、それら多くの生き物たちがつながって、命を支え合っているということです。

私たちは、多くの先祖の命が繋がって、生まれてきました。さまざまな命を食べ、その命は私たちの血や肉となり、身体を支えてくれています。また多くの生き物を、衣服や家具、紙などに利用し暮らしています。人間が生きていくため不可欠な酸素も、太陽の恵みを受けた植物が、土や水から栄養をもらい、つくっています。その植物もまた、子孫を残すために昆虫の力を借りています。空気や水で地球上のすべての生き物の命とつながり、今の私たち



まとまりの系列 (レベル)

を支えているのです。

地球には、土、水、空気、太陽光があり、46億年という長い時間をかけて、さまざまな環境に適応した多くの生き物が生息しています。これを生態系といいます。雨がほとんど降らない砂漠、数時間に集中的に雨が降る熱帯雨林、雨季と乾季がはっきりしているサバンナ、年中氷で覆われ太陽の沈まない季節がある南極、水田、都市など、さまざまな生態系があります。これらの生態系が集まり、地球という大きな生態系をつくっています。

生態系のメンバーであるタヌキやメダカ、アカマツやコメ、微生物などさまざまな生き物は、命の長さは違えど、何かを食べ栄養をもらい、呼吸をし、排出し、成長し、子孫を残し、生まれては死ぬことを繰り返しています。食べられた生き物も、形を変えて食べた生き物の中に取り込まれ、地球の中



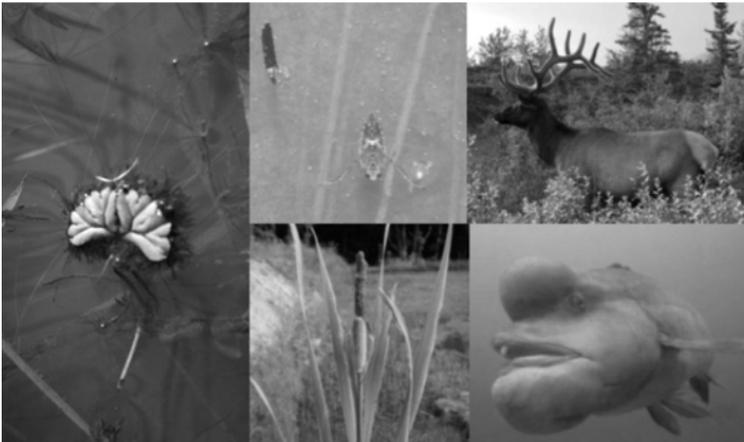
生態系の多様性

を巡っています。植物も動物も、空気と水が必要とし、生態系の環の中で私たち人間と共に結びつきながら、生きています。

現在、地球上には、190万種の生き物が確認されています。しかし、まだ発見されていない種も数多く存在し、5000万から1億の種がいるとも推測されています。

これらの生き物たちは、種は同じでも一つ一つ異なります。私たち人類も同じヒトですが、血液型や肌の色、アルコールに強い弱いなどの差があります。この差は、遺伝子によって生まれるのです。ほかの生き物も同様です。例えば、同じゲンジボタルといっても、東日本と西日本で異なります。

そして、この違いこそが大切なのです。地球の歴史と共にさまざまな生態系が成り立ち、その地域の生態系に合った、さまざまな遺伝子を持つ種がたく



種の多様性

生物多様性
ワクワク♡チエツク



「ここ」では、地球を人間の身体に置き換えて私たちの行動や意識を手エックしてみたいと思います。

地球のエネルギーの源は「太陽」。人間でいうと「心臓」にあたるでしょう。かつてこの太陽からのエネルギーが止まってしまったことがあります。隕石の衝突により土埃が舞い上がり、厚い層となり、太陽の光が地上に届かなくなってしまったのです。それにより、地上で繁栄を極めていた恐竜は、姿を消してしまいました。

「森」は、二酸化炭素を吸って酸素をつくっています。森に相当する器官は「肺」といえます。肺の細胞がつぎつぎに壊れていったら私たちの体どうなるでしょうか？

2000年から2005年の間に、世界から日本の面積の3分の1に相当する730万haの森がなくなりました。これは1分間にサッカーグラウンド4面分の森が消えていることとなります。私たちは、唯一酸素をつくり出してくれる森を、開発し壊しているのです。これで本当に大丈夫なの

地 球

太陽 →
森 →
干潟 →
川 (水) →
下水道 (下水) →
道 →
動物 →
人 →

身 体

心臓
肺
腎臓
血管 (血液)
リンパ腺 (リンパ液)
神経
筋肉
脳

心臓 (太陽)

□1 このマークについて
知らない



□2 石油や石油製品をどんどん使っ
ていね

□3 国産の高い食材よりも外国から
の安い食材を買っている

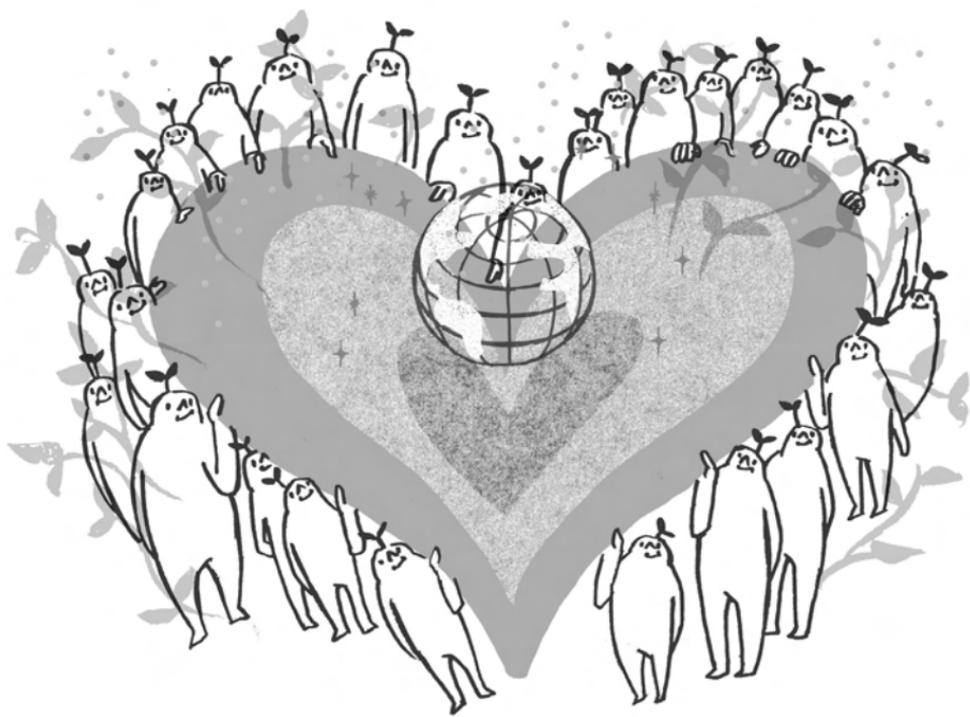
【解説】

□1 持続可能な森林と木材のマーク

木は太陽エネルギーの塊としてバイオマスエ
ネルギーとなる貴重な資源です。FSC(森林
管理協議会)は、木材の生産において適切に管
理された森林や、そこから切り出された木材を
使って生産・加工されたものを認証する国際機
関の一つで、これはそれを証明するマークです
(©1996 Forest Stewardship A.C.)。F S C
の認証を受けた森は、さまざまな生き物のす
みかとなりますし、経済的にも持続できるよう
な木材生産がされています。コピー用紙やお菓
子の箱、雑誌や本、割り箸、椅子、机など、至
るところでFSCのマークを目にするようにな
りました。消費者である私たちが、これらの商
品を買うことで、生き物のすみかとなる森と、

第 3 章

絵でみるリオ宣言



1992年ブラジルのリオデジャネイロで、地球サミットと呼ばれる、地球の方向性を大きく転換する会議が開催されました（第1章参照）。「持続可能な開発」を打ち出しパラダイムシフト（価値観の変革）を起こしたのです。この会議において、「環境と開発に関するリオ宣言」が採択されました。環境を破壊し、開発してきた時代から、環境と開発を一つのものとして捉え、豊かさも、そして自然も守るため、27の原則が提唱されたのです。

その原則は、短い文章で構成されています。しかし、その文章を読み解くのは、容易ではありません。そこで、その文章から読み取れることを、キャッチフレーズと絵で表してみました。なんとなくでも、このリオ宣言について、興味を持ってもらえれば幸いです。文章から浮かべる映像は、人それぞれに異なることと思います。なのでぜひ、皆さんも想像してみてください。このリオ宣言から、どんな未来がつけられていくのでしょうか……



第1原則 あなたがキーマン

【条文】 人類は、持続可能な開発への関心の中心にある。人類は、自然と調和しつつ健康で生産的な生活を送る資格を有する。

【解説】 人類の未来を左右するのは、自分たちだということなのです。持続可能な社会をつくっていくために、クマでもハチでもなく、人間が考え行動しなければいけないのです。とても当たり前のことなのですが、その人類がほかの多くの生き物、そして未来の人類に対しても、大きな影響を与える、ということにおいて、私たちはその中心にいることを自覚しましょう。また、私たちは自然と共に暮らし、健康的で生産的な生活を過ごせる権利も持ち合わせています。皆さんは自然と調和したまちに、暮らせていますか？